

令和2年度公益社団法人宮津与謝広域シルバー人材センター事業報告

I 総括的事項

我が国の経済状況は、新型コロナウイルスの流行を背景に回復基調が頭打ちとなり、特に外出自粛に伴うサービス産業の落ち込みが大きく、度重なる緊急事態宣言の発令、延長を受け、日本経済の冷え込みと国民の生活不安は大変厳しい状況となっています。今後も、新型コロナウイルスの流行を完全に収束させることは長期間を要する状況であり、引き続き、景気は停滞感の強い状況が続くものと見られます。

当シルバー人材センター（以下「センター」という。）においても、観光、宿泊、飲食などの一般企業分野で休業が相次ぎ、管理、運転、清掃などに関連する契約の落ち込みに加え、公共施設の休館などによる施設管理部門の受注の減少が、センターの財政状況に大きな影響を及ぼしました。また、これまで継続して受注していた公共事業発注の打ち切りにより、1千万円単位で事業実績に影響を受けるなど、令和2年度の契約金額は令和元年度の86.5%に留まる約2千2百万円もの減少となり、厳しい事業運営を強いられた一年でありました。

このような中において、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと、一丸となって事業推進に取り組むとともに、職員数や事務的経費の抑制など運営経費の削減に努めた結果、事業収入の落ち込みによる財源不足を何とかカバーすることができ、赤字決算を回避することができました。

請負・委任事業においては、夏場の酷暑が剪定、除草作業等に影響を及ぼし、猛暑の中での就労や作業スケジュールの遅れが生じるなど、

就業会員も例年にない苦労を強いられましたが、幸い熱中症等の発生には至りませんでした。しかしながら、継続して「事故ゼロ500日運動」に取り組んでいますが、不注意による事故が相変わらず発生しており、昨年度を下回るものの本年度も傷害事故1件、物損事故4件の結果となりました。原因は、草刈作業中の飛び石事故がほとんどであり、改めて安全対策が急務となっています。

独自事業に関しては、唯一、地元の産物をふんだんに取り入れた健康弁当配食事業に取り組んでおり、女性会員の就業の場、生きがいの場として定着し、当初の目標であった5,000食には届かなかったものの、4,766食を販売することができました。

シルバー人材センターの基盤である会員数の拡大については、65歳までの定年延長や継続雇用制度の導入などで新規の入会者が減少傾向にある中、35人の入会があったものの、病気、高齢化等の理由により53人が退会され、本年度末の会員数は372人に留まりました。前年度末と比べ18人の減少となっており、初めて取り組んだ管内全戸への家庭、事業所向けに新聞折込を年2回行ったことが一定の効果を得たものの、年度末に多くの退会が集中したことが要因と考えています。

一方、会員の就業状況につきましては、就業実人数は320人で、前年度と比べ39人減員となり、会員の就業率においても86.0%で、前年度比で6.1ポイントと大きく下回る結果となり、受注の落ち込みが会員の就労状況に影響を及ぼしました。

事業の実績では、請負事業の受注金額が1億4,243万円であり、前年度を2,215万円大きく下回りました。また、受託件数におい

でも4,725件で、前年度を73件下回る結果となりました。受注金額の落ち込みに比べて、受託件数は小幅な減少に留まっていますので、請負の小口化が進行しているといえます。また、適正就業の観点から積極的に取り組みました派遣事業は、本年度は昨年度に続き108万円減少し、877万円に留まりました。請負業務と派遣業務を合わせた受注金額は、本年度1億5,120万円で、昨年度比2,323万円の減少となり、新型コロナウイルスの影響と公共受注の減少が大きく影響した結果となりました。

このように、請負、派遣事業とも大変厳しい状況が続いており、令和3年度においても引き続き関係市町に公共事業の発注をお願いするとともに、地域の事業所並びに住民の皆様に就業機会の受注を呼びかけるなど、新規開拓に向けてより一層理解と協力を求めていく必要があります。

今後、コロナ禍の影響が引き続き継続するとともに、社会情勢や高齢者の雇用環境は益々厳しい状況が続くと思われませんが、引き続き会員、役職員一人ひとりが知恵を出し合い、地域社会に貢献しながら総力を挙げて活力あるセンターの形成に努めていかなければなりません。

以下に、主な事業概要について報告いたします。

Ⅱ 事業概要

1 組織体制の充実・強化に関すること

- (1) 理事会、専門部会、安全・適正就業委員会、地域班役員会及び会報編集委員会等を開催し、それぞれ所掌業務の運営に積極的に努めました。
- (2) 会員相互の連帯意識や就業機会の拡大を図るため、地域班班長会議を2か月に1回、定例開催し、会員の意見を幅広く聴く機会を設けました。例年開催している地域班会員懇談会は、新型コロナウイルスの流行により開催を見合わせました。
- (3) 高年齢者が、地域社会とともに歩むセンターを目指して取り組んでいる公共団体のイベント開催会場でのPR活動は、コロナ禍の影響から相次いで開催が中止となったため、宮津市内での1回の実施となりましたが、公共施設のボランティア活動（清掃及び剪定）については、宮津市府中公園、旧伊根町役場、与謝野町加悦庁舎において実施することができました。

2 会員の増強促進

- (1) 会員の増強は、センター活動の大きな柱であるため、一般住民向けに募集した剪定、弁当づくりの講習会を開催したところ、7名の入会につながるなど加入促進に一定の成果が見られました。また、5月及び10月の年2回、管内全戸に会員募集チラシの折込みや行政広報紙への毎月掲載を行うなど、加入促進の取り組みを行い、一定の効果がありました。
- (2) 入会希望者に対する説明会を毎月20日及び臨時に開催しま

した。その結果、入会説明会の参加者は年間合計で64人、月平均は5.3人で、前年度の合計、月平均とほぼ同じ参加者があり、前年並みの会員数で推移していましたが、3月に退会者が18名あったため、令和3年3月31日現在の会員数は372人に留まりました。内訳は男性265人、女性107人、平均年齢は男性73.5歳、女性73.6歳、全体では73.5歳となっています。

3 就業開拓と拡大

(1) センター活動の更なる発展と会員が希望する就業を提供するため、関係市町長に運営費補助金の引上げ、及び受注が減少している公共事業の発注拡大などの要望活動を行いました。

また、京都府シルバー人材センター連合会、京丹後市シルバー人材センターと共に、京都府丹後広域振興局長に対し、運営補助金の継続及び公共事業の発注拡大などの要望書を提出しました。

(2) 会員主導型の就業を念頭に、職群班の確保と体制強化を図るため職群班合同班長会議を開催し、発注者の要望に応えられる体制づくりと会員の仲間意識の高揚、機能の充実や安全指導、さらには後継者確保に努めました。

4 介護予防・日常生活支援総合事業の推進

介護予防・日常生活支援総合事業を受託し、スムーズな事業運営と利用者へのきめ細やかな対応ができるよう月1回の定例

会・研修会を開催しました。事業の実績では、宮津市及び与謝野町で35名の利用者があり、延べ利用回数は1,888回、契約金額は377万円で、コロナ禍にあっても献身的な就業会員の努力により、いずれも前年度を大きく上回ることができました。

介護予防・日常生活支援総合事業の実績

項目	年度	宮津市	伊根町	与謝野町	合計
利用者数 (人)	令和2年度	26	—	9	35
	令和元年度	21	—	11	32
増減		5	—	△2	3
延利用回数 (回)	令和2年度	1,345	—	543	1,888
	令和元年度	1,016	—	462	1,478
増減		329	—	81	410
契約金額 (千円)	令和2年度	2,690	—	1,086	3,776
	令和元年度	2,033	—	924	2,957
増減		657	—	162	819

5 独自事業の推進

(1) シルバー健康弁当の推進（弁当グラン・マ）

平成31年1月に現在のセンター内に整備した新しい調理室を拠点に積極的に活動し、目標としていた5,000食には届きませんでした。4,766食を売り上げることができました。また、グラン・マ会員も3名の新規入会があり、令和3年3月末現在で11名に増加し、年間を通して定着した活動を行うことが

できました。

- ・販売日 定例の販売日は毎週金曜日とし、他に注文に応じて配食を実施
- ・就業実人数 11人（令和3年3月31日現在）
- ・月活動回数 3回～10回 計67回／年
金曜日のほか注文に応じて配食日を追加
- ・販売数 4,766食
（1回あたり平均販売数71食）
- ・販売金額 2,542,150円

6 普及啓発活動の推進

- (1) 広報紙「宮津与謝広域シルバーだより」を年2回発行し、管内の各家庭、事業所等にセンターの運営状況や管内施設の紹介などを広報するとともに、積極的に会員募集、仕事募集を行いました。
- (2) 全国一斉「シルバーの日」として設定された10月の「普及啓発促進月間」の取り組みは、コロナ禍でイベントが相次いで中止となったため、宮津市内での啓発活動1回、管内3か所の公共施設で清掃・剪定作業を行う社会奉仕活動を実施しました。

7 安全・適正就業対策の推進

- (1) 安全・適正就業委員会を開催し、安全はセンター事業の基盤であり、全てに優先することを全会員に周知徹底するため、安全パトロールを実施し、就業環境の確認と安全・適正就業の徹底を

図りました。

また、傷害・物損事故に係る未然防止対策を協議し、事故発生現場の検証や事故原因の調査、安全対策の研究を行うため「事故検証会議」を開催しました。

(2) 草刈り、植木剪定作業では安全用具の着用や安全就業基準の遵守、防護ネット活用等の指導を行いました。特に機械除草作業の飛び石事故が多く発生しており、注意喚起を強化しましたが、残念ながら事故が以下のとおり発生しました。

事故発生件数

傷害事故 1 件 (昨年度 1 件)

物損事故 4 件 (昨年度 7 件)

計 5 件 (昨年度 8 件)

8 会員の就業に関する講習会・研修会の実施

高齢者活躍人材確保育成事業として、京都府連合会と連携して後継者が不足している植木剪定講習会（受講者 7 名）やお弁当づくり体験（受講者 6 名）を実施し、地域の高齢者等の雇用・就業機会の確保及び会員獲得に取り組みました。どちらも 2 日間にわたる講習で計 7 名の新規入会につながりました。また、入会説明会を兼ねた健康セミナーを開催し 16 名（内非会員 7 名）の参加がありました。

9 一般労働者派遣事業（シルバー派遣事業）の推進

当センターに、京都府連合会が行う一般労働者派遣事業（シル

バー派遣事業)の宮津与謝事務所を置き、派遣業務を実施しました。主な職種は自動車運転、保育補助、育苗作業などとなっており、令和2年度の実績は、契約件数12件、契約金額は877万円で、受注の落ち込みにより昨年度と比べ108万円の減少となりました。今後の新規開拓が課題となっています。

派遣労働者事業の実績

項目	契約件数 (件)	契約金額 (千円)	就業実人員 (人)	就業率 (%)	就業延人員 (人)
令和2年度	12	8,772	27	58.7	1,394
令和元年度	17	9,852	35	79.5	2,011
増減数	△5	△1,080	△8	—	△617
増減率(%)	△29.4	△11.0	△22.9	—	△30.7

10 有料職業紹介事業の推進

京都府連合会が行う職業紹介における臨時的かつ短期的な雇用による就業、またはその他軽易な業務に係る就業拡大に努めましたが、職業紹介の実績はありませんでした。

11 個人情報の保護

「個人情報の保護に関する規程」に基づき、個人情報を取得するときは利用目的を明示し、第三者への個人情報は会員の同意を得るなど、個人情報の運用・管理を徹底しました。

12 健全な財政運営と運営基盤の強化

契約の落ち込みから財政運営が非常に厳しいため、職員数の抑制（1名減）と事務局経費の節減、効率的な業務運営に努めるとともに、受託事業収入の早期回収と積極的な受注に心掛けました。また、地域班、職群班の会議を重ね、体制強化と会員相互の連携を深め、運営基盤の強化に努めました。

13 事務局機能の充実・強化

職員を8名から7名に減員しましたが、各職員とも経験を最大限に生かしながら努力することで、事務局体制を維持することができました。また、毎朝の朝礼や事務局内での報告・相談などを密にし、情報共有に努めました。職員資質の向上については、関係機関主催の職員研修会に積極的に参加させ、職員の事務処理能力の向上に努めました。